

# 令和元（2019）年度業務実績等報告について

## ○地方独立行政法人制度における評価の仕組み

- ・地方独立行政法人法第78条の2に基づき、各事業年度の業務実績及びその自己評価結果を明らかにした報告書を評価委員会へ提出
- ・評価委員会は、業務実績等報告書等に基づき、評価（年度評価）を実施

※4年度目終了時には、中期目標期間終了時に見込まれる実績の評価（見込評価）、中期目標期間終了時には、中期目標期間中の実績の評価（期間実績評価）を実施

### <1 自己評価の状況>

	小項目	自己評価				
		S	A	B	C	D
東京都立大学	58	3 (5%)	13 (22%)	42 (72%)	0 (0%)	0 (0%)
東京都立産業技術 大学院大学	21	7 (33%)	6 (29%)	8 (38%)	0 (0%)	0 (0%)
東京都立産業技術 高等専門学校	26	3 (12%)	12 (46%)	11 (42%)	0 (0%)	0 (0%)
法人共通(組織運営基盤)	33	1 (3%)	4 (12%)	28 (85%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	138	14 (10%)	35 (25%)	89 (64%)	0 (0%)	0 (0%)

#### <S評価>

- 都立大
  - 【1-06】博士後期課程の活性化に向けた取組
  - 【1-32】障がい者スポーツの理解促進に向けた取組
  - 【1-40-2】TMUプレミアム・カレッジの開講
- 産技大
  - 【2-01】研究科再編による教育プログラムの開発・設計(⇒■法人共通【4-10】に再掲)
  - 【2-07】教育の評価、教育の質改善の取組
  - 【2-11】志願者獲得に向けた教育成果の発信
  - 【2-18、2-18-2】社会人リカレント教育と学修コミュニティの充実
  - 【2-19】グローバル人材を育成する教育の推進
  - 【2-20】アジア諸国等の大学等との連携
- 高専
  - 【3-01】職業教育プログラムによるものづくり技術者の育成
  - 【3-05、3-27】海外体験プログラムによる国際的に活躍できる技術者の育成

#### 年度評価における業務実績等報告

- ・年度計画・中期計画の実施状況を検証し、S・A・B・C・Dの5段階で自己評価する等、業務実績等報告書を作成
- <自己評価の評語>

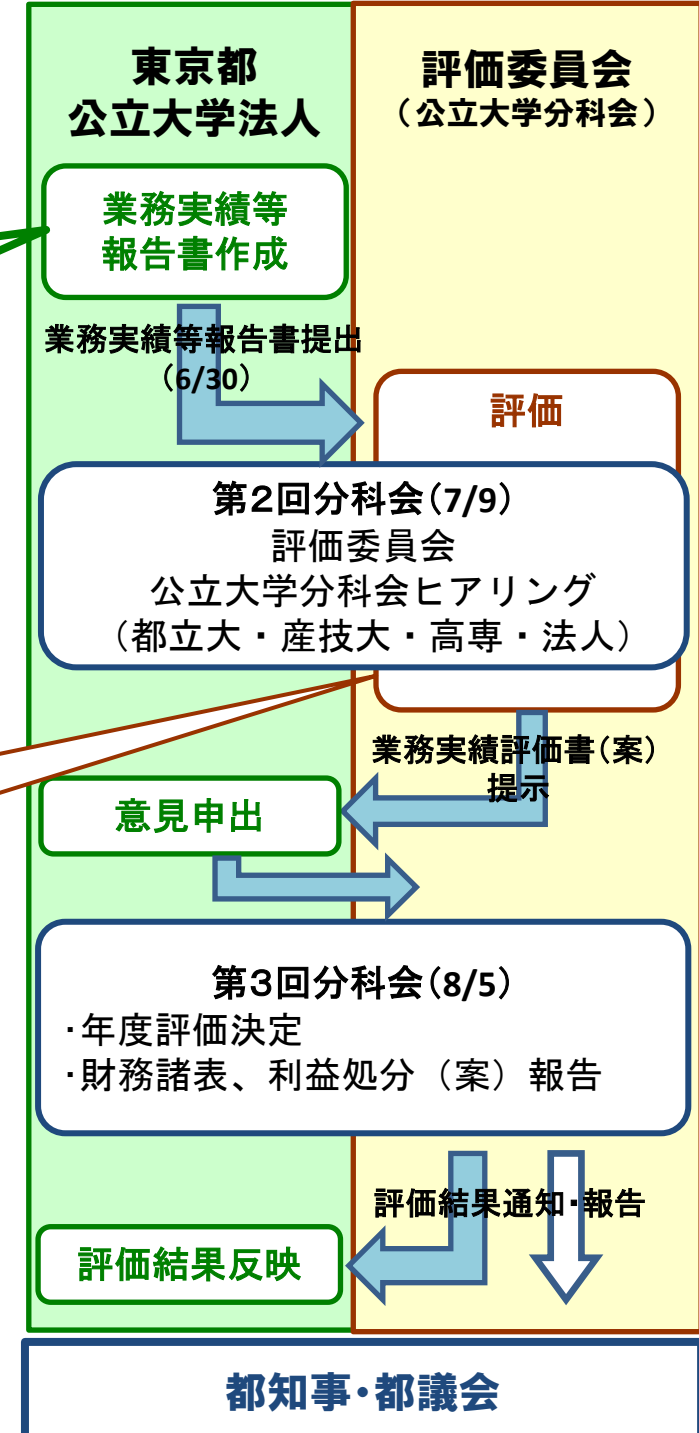
第三期	
評価	評語
S	計画を当初予定より大幅に上回って実施している。
A	計画を当初予定より上回って実施している。
B	計画を当初予定どおり実施している。
C	計画の実施状況が当初予定を下回っている。
D	計画の実施状況が当初予定を大幅に下回っている。

#### 評価委員会による評価

- ・業務実績等報告書を基に、教育研究の状況、法人の業務運営・財務運営の改善等に視点を置き、総合的に全体評価・項目別評価を実施
- ・項目別評価は、一定のまとまり(大項目)ごとに5段階で評価
- <項目別評価の評定・評語>

第三期	
評定	評語
1	計画を大幅に上回って実施している。
2	計画を上回って実施している。
3	計画を順調に実施している。
4	計画を十分に実施できていない。
5	業務の大幅な見直し、改善が必要である。

### <2 業務実績評価の流れ>



# 令和元年度の主な実績（都立大）



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

■ **教育に関する取組** ～豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材の育成を目指し、教育改革を推進しました～

教育内容・成果

## ■ 教育研究等の質の向上

- 主専攻とは異なる他分野の先端的な研究を学ぶことを通じて研究力を更に高め、視野を広げ応用力を身に付けさせることを目的とし、**大学院分野横断プログラム**を開講し、**初のプログラム修了者を輩出**しました。

### <修了者数>

- 超伝導理工学プログラム 7名
- 生体理工学プログラム 6名



【プログラム修了式】

【第三期の方向性】「本物の考える力」を身につけるための教育を推進

- 経営学研究科及び理学研究科において、学業成績優秀な大学院進学希望の学部生への**大学院授業科目の早期履修制度を導入**しました。

<早期履修者：34名（延べ70科目）>

- 法学部の法曹志望学生に対して、学部段階から法科大学院と連携し教育を行う**法曹コース（連携法曹基礎課程）の令和2（2020）年度設置**に向けて準備を整えました。

<法曹コース履修予定者：13名>

- 国内外の大学・研究機関・民間企業等と組織的な連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムである文部科学省の**卓越大学院プログラムの連携大学として学生の受入れを開始**しました。

### <プログラム名>

**パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム**

## ■ 博士後期課程の活性化に向けた取組の推進

令和元年度S項目

平成29（2017）年度より推進してきた**博士後期課程の活性化**（経済支援、キャリア支援、大学院教育、社会人の受入拡大、留学生の更なる獲得）について、令和元（2019）年度をもって当初予定の取組を全て完了するとともに、博士後期課程の定員充足率について改善を図りました。

### 【主な取組】

- 大学院キャリア科目として、「**理工系博士人材のキャリア形成**」及び「**博士人材の研究インターンシップ**」の2科目を開講
- 令和2（2020）年度開講に向け、3つ目の大学院キャリア科目「企業における知的財産マネジメント」の検討を推進
- 博士後期課程修了後（満期退学後）に一定期間、研究活動等を継続できる博士研究員制度を導入**
- 専用ウェブサイトにて、博士人材の採用動向、各研究科や研究室における企業説明会、積極採用企業情報等を公開

## ■ 教育の質の改善

教育改革の推進及び教育の質の更なる向上を図るため、**全学と部局のFD活動の連携強化・相互支援を推進**しました。

### 【主な取組】

- 部局独自セミナー等の開催推進
- 教員がより参加しやすいよう、**教育力向上FDセミナーや教育改革推進事業成果報告会を新たに開催**
- アクティブ・ラーニングセミナーやTAの効果的な活用方法等の講義について、**eラーニングシステムで動画配信を開始**
- 基礎ゼミナール懇談会を開催し、担当教員間で課題等を共有

<セミナー開催数：20回／参加教員数：308名>



【FDセミナー】

【第三期の方向性】 教育改革の一層の推進に向けた 教学マネジメントサイクルの展開

教育の実施体制

## ■ 入試改革の推進及び入試広報による発信

- アドミッション・センター拡大会議を開催し、令和3（2021）年度以降実施の学部入学者選抜基本方針を踏まえた新たな制度設計・検討を行いました。
- 令和3（2021）年度以降実施の**多様な選抜の募集人員**について、**全募集人員の30%まで拡大**しました。
- 会場変更や整理券の事前配布制とするなど、増加している来場者数に対応した大学説明会を実施しました。<大学説明会参加者：29,375名>



## ■ 高大連携等の推進

**東京都教育委員会との共催事業**「第3回都立高校生のための先端研究フォーラム」や**東京都教育庁からの依頼事業**「第2回都立高校生のための先端研究フォーラム」を実施するなど、**高大連携を強化**しました。

【第三期の方向性】 質の高い学生確保に向けた入試改革の推進

入学者選抜

## ■ ボランティア支援体制等の充実

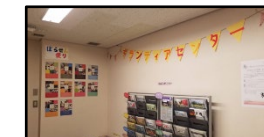
ボランティアプログラムへの**参加年数に応じて、それぞれの学生が課題をもって活動に取り組めるよう支援**しました。

### 【主な取組】

- 東京都障害者スポーツ大会等のスポーツボランティアプログラム等を実施
- ラグビーワールドカップ2019日本大会の公式ボランティアプログラム「NO-SIDE」に参加
- 「外国人おもてなし語学ボランティア講座」（東京都共催）を実施
- 南大沢キャンパスに加え、**新たに荒川キャンパスにボランティアセンターを開設**



【東京都障害者スポーツ大会】



【ボランティアセンター（荒川）】

【第三期の方向性】 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（※）におけるボランティアリーダーの育成

※「東京2020大会」という。

学生支援

# 令和元年度の主な実績（都立大）



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

■ 研究に関する取組 ～学術研究の動向や社会ニーズの変化に迅速・柔軟に対応し、世界をリードする重点的な研究を支援・強化しました～

研究

## ■ 科学研究費補助金の新規採択率向上に向けた取組

特に新規採択率の低下が顕著だった「若手研究」種目について、平成30（2018）年度に申請書類の組織的な作成支援をしたことにより、令和元（2019）年度の新規採択率は30%以上を上回りました。また、令和2（2020）年度の新規採択率の更なる向上を目的に、令和元（2019）年度は、研究種目を限定せず申請書類の組織的な作成支援や、キャンパスごとに科研費セミナー、ワークショップ及び科研費説明会等を実施しました。

評価結果反映事項

対応報告事項



【科研費セミナー】

<新規採択率（挑戦的研究（開拓・萌芽）を除く）：34.1%（H30：27.6%）>

## ■ 課題解決型研究の推進及び研究実施体制の整備

大都市の先端的課題解決に取り組む研究センター等による分野横断的・学際的な研究プロジェクトを積極的に推進するとともに、研究実施体制を整備しました。

【主な取組】

- ・15研究センター、2リサーチコアによる研究の推進
- ・知財等の目的別プロジェクトチームによる円滑な研究プロジェクト支援
- ・文部科学省の先端研究基盤共用促進事業（研究機器相互利用ネットワーク導入実証プログラム（SHARE））に採択決定

【第三期の方向性】 大都市の先端課題解決に資する研究を推進

■ 社会貢献に関する取組 ～東京2020大会も見据え、専門的知見や教育資産を都政・都民へ発信・還元しました～

社会貢献

## ■ 障がい者スポーツの普及振興

障がい者スポーツの理解促進と裾野拡大のため、都民向けの障がい者スポーツ事業を実施しました。

【主な取組】

- ・ボッチャ体験教室（参加者：延べ293名）
- ・パラスポーツ体験教室（参加者：延べ252名）  
（シッティングバレーボール、ブラインドサッカー等）
- ・車いすバスケットボール体験会（参加者：243名）

令和元年度S項目



対応報告事項

## ■ 東京都等との連携強化

東京都への施策提案を実施するとともに、他大学、研究機関等の共同研究や連携強化を推進しました。

【主な取組】

- ・都へ40件の施策提案を実施及び都職員向けの研究シーズ集（試行版）を作成
- ・「子どもの貧困調査研究コンソーシアム」を発足（都立大を含む6大学）

## ■ TMUプレミアム・カレッジの開講

令和元年度S項目

- ・生涯現役都市の実現に向け、50歳以上を対象とした「学び」と「新たな交流の場」として、令和元（2019）年度よりTMUプレミアム・カレッジを開講しました。「首都・東京をフィールドに学ぶ」をテーマとした幅広い独自のカリキュラムを提供し、最終的には、1年間の学びの成果を修了論文とし、本科53名全員が修了しました。
- ・また、本科に加え、2年目も引き続き学び続けられる専攻科を令和2年（2020）年度から設置するため準備を整えました。



【フィールドワークと成果発表会の様子】

※大学名称変更に伴い、「TMUプレミアム・カレッジ」は、令和2（2020）年度から「東京都立大学プレミアム・カレッジ」に名称を変更

【第三期の方向性】 都民生活の質的向上に向けた取組の充実

■ グローバル化に関する取組 ～国際社会で活躍できる人材を育成するため、国際通用性のある教育研究環境の整備を進めました～

グローバル化

## ■ 学生の海外派遣及び外国人留学生受入れの拡大

国際副専攻コースや留学促進のためのガイダンスや講座の実施等により、学生の海外派遣を促進するとともに、国内外での効果的な広報活動により、外国人留学生の受入拡大に取り組みました。<派遣学生数：232名/受入留学生数：661名>

## ■ 海外の大学等との連携

教育・研究分野において重要なパートナーとなり得る交流重点校と活発な教育・研究交流を実施するとともに、学生の国際感覚等を養う国際交流プログラムを実施し海外の大学等との連携を強化しました。

【国際交流プログラム】

- ・グローバル・コミュニケーション・キャンプ（GCC）の実施（参加学生：58名）
- ・グローバル・パートナーシップ・オブ・アジアカレッジズ（GPAC）に参加（参加学生：20名）
- ・グローバル・ディスカッション・キャンプ（GDC）試行開催（参加学生：21名）

## ■ 五大陸国際学生シンポジウムの開催

東京2020大会の開催を控え、東京2020応援プログラムとして、オリンピックシボルの由来である「五大陸」の名を冠した国際学生シンポジウムを開催しました。海外の学生との交流等を通じて、都立大の学生の国際感覚の涵養につながりました。

【シンポジウム開催概要】

- ・テーマ：グローバルシティが拓くものー多様性と調和/未来への継承ー
- ・日程：11月7日（木）から11月9日（土）まで
- ・参加者：一般聴講者含め443名  
（24の国と1つの地域、95大学が参加）
- ・プログラム：研究室交流、東京2020大会関連施設等視察、パネルディスカッション等



【シンポジウムの様子】

【第三期の方向性】 国際的な教育研究環境構築の推進

# 令和元年度の主な実績 (産技大)



東京都立  
産業技術大学院大学

## ■ 教育に関する取組 ～産業の活性化に貢献する高度専門職業人の育成に向け、先進的教育手法を更に充実させました～

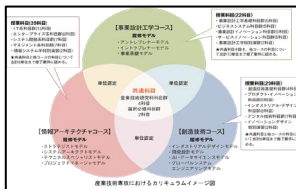
教育内容・実施体制

### ■ 教育内容

令和元年度S項目

令和2(2020)年4月の研究科再編(既存の2専攻体制から、1専攻3コース体制へ再編)に向け、教育体制の検討を実施するとともに、設置に係る届出書類を文部科学省に提出し、附帯事項なく届出どおり設置することになりました。

＜新専攻体制＞ 産業技術専攻 (①事業設計工学コース、②情報アーキテクチャコース、③創造技術コース)



### ■ 教育の評価・改善

令和元年度S項目

毎月実施の運営会議における年度計画の進捗管理や自己点検・評価委員会への進捗報告等、PDCAサイクルを着実に効率的に回すとともに、授業評価アンケートに基づくアクションプランをFDレポートに取りまとめました。

＜授業評価アンケート 全授業評価平均：過去最高 4.37 (5段階評価)＞

【第三期の方向性】 高度専門職業人育成のための教育プログラムの展開

入学者選抜

### ■ 志願者獲得に向けた効果的な広報活動の展開

令和元年度S項目

研究科再編等の積極的で効果的な情報発信により、情報アーキテクチャコース2.06倍、創造技術コース1.28倍、事業設計工学コース1.67倍と高い倍率で高度専門職業人としての資質を有する学生を確保しました。

【主な取組】

- ・ホームページの全面リニューアルを実施
- ・大学名称変更PR動画をYouTubeやホームページに掲載
- ・学生の活躍状況PRのため、既存ロールモデル集に加え、新たに「起業版ロールモデル集」を作成、配布



＜大学院説明会参加者(15回開催)：過去最多410名＞【起業版ロールモデル集】

【第三期の方向性】 成果を的確に把握し大学の強みを発信

## ■ 社会貢献に関する取組 ～社会のニーズに応える学修環境の整備を推進しました～

社会貢献

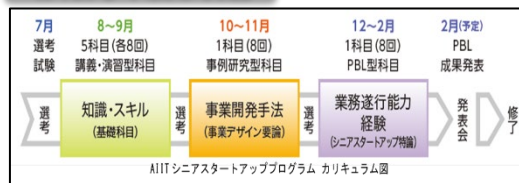
### ■ 社会人リカレント教育の充実

生涯現役都市の実現に向けた取組の一環として、起業に挑戦するシニア層を後押しし、起業のための高レベルの知識・スキルの修得を目指す、AIITシニアスタートアッププログラムを開講し、21名のプログラム修了生を輩出しました。

### ■ 都や区市町村等との連携強化

都や区市町村等と連携したイベントへの参加及び連携講座の実施を通じて、中小企業振興等の政策課題に対するシンクタンク機能を発揮するとともに、自治体職員向けの研修や公開講座を企画・実施し、自治体行政の推進に寄与しました。

令和元年度S項目



対応報告事項

【第三期の方向性】 社会人リカレント教育の更なる充実

## ■ 研究に関する取組

研究

### ■ 教育研究成果の発信

高度専門職人材教育に関する研究と調査を行い、その質的向上に資するとともに成果を発信することを目的にAIIT高度専門職人材教育研究センターを新たに設置しました。

### ■ 開発型研究の推進

研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として、学際的な4つの研究所を運営しました。また、令和2(2020)年度からは合計6つの研究所を運営する準備を整えました。



【多言語対応スマートロボット】

【第三期の方向性】 専門職大学院としての研究成果を社会へ還元

## ■ グローバル化に関する取組 ～アジア諸国等の大学と連携して国際的な教育活動等を展開しました～

グローバル化

### ■ グローバル人材を育成する教育の推進

学生のグローバルコンピテンシー向上のためのカリキュラムとしてグローバルPBLを実施しました。

【主な取組】

- ・インドネシア、ラオス、カンボジア、ベトナムでは、「SDGs (Sustainable Development Goals) 達成のための政策提言」発表を実施
- ・新たに中国地質大学と「グローバルエンジニアに関するPBL手法の検討」をテーマにグローバルPBLを実施

令和元年度S項目



【ラオス国家経済研究所とのグローバルPBL】

【第三期の方向性】 グローバルに活躍する高度専門職業人の育成

### ■ アジア諸国等の大学との連携

令和元年度S項目

アジア諸国の大学等との連携を深め、活動成果の発信をしました。

【主な取組】

- ・アジア諸国の大学ネットワーク (APEN) の第1回APEN総会および島しょ振興ワークショップを八丈島で実施
- ・エジプト政府高等教育省が選抜派遣した学部学生7名を対象に、4週間のサマーコースを開催
- ・ウズベキスタンにて、産技大をモデルとしたPBL型教育の実装化のための共催セミナーを開催
- ・アジア諸国等からの視察を多数受け入れ、産技大の教育内容等をPR



【第1回APEN総会】



【第74回国連総会議長、国連日本政府代表部大使他視察】

# 令和元年度の主な実績（高専）

## ■ 教育に関する取組（教育の内容、学生支援） ～産業界のニーズに応える新たなカリキュラムを展開しました～

### 教育内容

#### ■ 新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成

品川は本科教育コース再編に向けたカリキュラム案等の策定、荒川はコース横断型医工連携教育・研究プロジェクトに向けた科目配置や関係機関との調整を進めました。

#### ■ 新たな職業教育プログラムの実施 令和元年度S項目

産業界や社会のニーズに応える2つの**職業教育プログラム**を実施し、**ものづくり技術者の育成に向けた教育を推進**しました。

【主な取組】

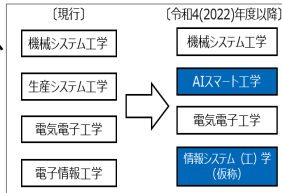
「情報セキュリティ技術者育成プログラム」**<履修生37名>**

- ・ **3名の第2期生を輩出**、情報セキュリティ関連企業へ就職
- ・ **専攻科課程のプログラム**を開始
- ・ **社会人の研究生**としての受入れを開始し、**3名を受入れ**

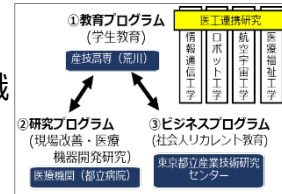
「航空技術者育成プログラム」**<履修生30名>**

- ・ **7名の第1期生を輩出**、主要航空企業へ就職

【第三期の方向性】 新しいものづくりを牽引する技術者の育成



【コース再編概要（品川）】



【医工連携教育・研究プロジェクト概要（荒川）】

## ■ 教育に関する取組（入学者選抜）

### 入学者選抜

#### ■ 多様な学生の確保

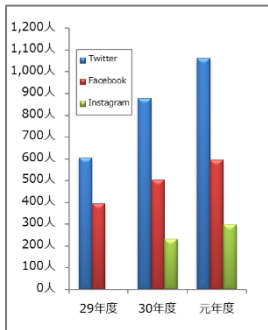
意欲ある志願者確保のため、**入学者選抜の見直しや積極的な広報**を実施しました。

【主な取組】

- ・ 品川区との**特別推薦入試制度拡充の正式決定**
- ・ 女子中学生向け広報活動の充実
- ・ HPリニューアルや第三期中期計画後半広報戦略策定

**<一般・推薦入試及び女子学生の志願者数過去最高>**

【第三期の方向性】 ものづくり意欲のある学生の確保



## ■ グローバル化に関する取組 ～世界で活躍できる技術者を育成しました～

### グローバル化

#### ■ 国際的に活躍できる技術者の育成

**実践的で相互関連性の高い2つの海外体験プログラム**を実施しました。

【主な取組】

- ・ グローバル・コミュニケーション・プログラム（GCP）  
（2大学1高専の学生による海外フィールドワーク等）

**<参加者30名>**

- ・ インターナショナル・エデュケーション・プログラム（IEP）  
（海外企業訪問、語学研修、ホームステイ等）

**<参加者40名、GCPへ13名推薦>**

【第三期の方向性】 グローバル化に対応できる技術者教育の推進



【GCP最終報告会】

### 教育体制・学生支援

#### ■ 課題発見・解決型実践的教育の展開

創造的な技術者育成のため、**課題発見・解決型の実践的教育を展開**しました。

【主な取組】

- ・ 教員向けアクティブ・ラーニング研修
- ・ 整備した機器の学生への使用説明会の実施

**<アクティブ・ラーニング導入：品川33科目（24科目増）、荒川34科目（25科目増）>**

#### ■ 多様な課外活動の支援・経済的支援の拡充

課外活動経費や資格試験等受験料の支援を実施しました。

**<柔道部16年ぶりの全国大会出場、プログラミングコンテスト特別賞、鳥人間コンテスト第7位等>**

【第三期の方向性】 創造的な技術者の育成、安心・充実した学生生活の支援



【柔道部全国大会出場】



【鳥人間コンテスト】

## ■ 研究に関する取組 ～ものづくりスペシャリストの育成に資する研究を推進しました～

### 研究

#### ■ 研究活動の活性化、若手教員への支援

若手教員を中心に科研費獲得のための応募書類添削や個別面談を実施しました。

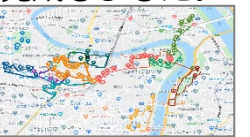
#### ■ 東京2020大会に資する研究推進

地元中学生の協力の下、取り組んできた「快適環境マップ」が完成しました。

対応報告事項

#### ■ 都立大・産技大との共同研究

「大学・高専連携事業基金」事業「第三期共同研究～専攻科Co-Labo.」において4件の共同研究を実施しました。



【環境快適マップ】

**<ベトナムの国際会議で Best Student Award受賞>**

【第三期の方向性】 研究活動の活性化

## ■ 社会貢献に関する取組 ～地域と連携して、ものづくり人材を育成しました～

### 社会貢献

#### ■ 若年層の情報セキュリティ技術者教育

中学生向けの体験型情報セキュリティイベントとして「**サイバーセキュリティTOKYO for Junior**」と「**ICT基礎Lab. for Junior**」を開催しました。

#### ■ 都職員等への人材育成支援

高専が構築したサイバー演習システムを用いて都職員等を対象に研修を試行実施した。

対応報告事項

#### ■ 地域における社会貢献等

品川区、警視庁等と連携し、**品川区内の中小企業者向けに「実体験型サイバーセキュリティセミナー」**を実施しました。

対応報告事項

【第三期の方向性】 ものづくり技術者等支援の充実



【サイバーセキュリティTOKYO for Junior】



【ICT基礎Labo. for Junior】

# 令和元年度の主な実績（法人共通（組織運営基盤））

## ■ 組織運営の改善に関する取組 ～法人の更なる飛躍の実現に向けた取組を推進しました～

戦略的な法人運営

### ■ プレゼンス及び認知度の更なる向上

経営審議会において、大学・法人の名称変更も踏まえ、各大学・高専のビジョンや将来構想と連動した、各校のプレゼンス及び認知度の更なる向上に向けた取組について議論・検討し、**第三期中期計画及び年度計画を変更しました。**

### ■ トップマネジメントの強化

経営・教学のトップ層の意向を施策展開に迅速に反映させました。

【主な取組】

- ・ 2大学1高専のビジョンや将来構想の実現に向けた第三期中期計画変更の最終調整
- ・ 経営審議会において重点的な計画やKPI等の進捗の共有
- ・ データ分析等に基づき各校で教学マネジメントを強化

対応報告事項

対応報告事項

### ■ 組織体制の整備・強化

**都連携及び研究力強化に対応した組織体制の確立**、大学院入試問題漏えい等の事故を受けた全学的な再発防止策の策定、戦略的な教員人事に係る方針の改正など、組織の基盤整備や教職員人事制度の改善を進めました。

<TOEIC600点以上の職員比率：22%> <都立大女性教員比率：20.5%>

### 【第三期中期計画の変更（概要）及び今後の取組の方向性】

都立大	大学の特長を活かした教育 > 総合大学の特長を活かした分野横断的な学びを促す教育等を推進 東京都や区市町村との連携事業の拡充 > 連携につながるシーズを創出し、情報を分かりやすく発信するとともに、行政とのマッチング機能を強化 工学分野の拠点強化による産学公連携の推進 > 多摩地域の中小企業や研究機関等との連携を促進するため、日野キャンパスに新棟を整備 生涯現役都市の実現に向けた取組の推進 > TMUプレミアム・カレッジを開講 質・量両面でのグローバル化の推進 > 中長期留学を促進、多様な国際交流プログラムを展開
産技大	社会人教育のニーズに応える研究科再編 > 起業・創業・事業承継に特化した学位プログラムを導入 人生100年時代を見据えたりカレント教育 > AIITシニアスタートアッププログラムを開講
高専	新しいものづくりを牽引する実践的技術者教育 > AIやIoT、ビッグデータ等を活用できる人材の育成に向けコースを再編 > コース横断型の医工連携教育・研究プロジェクト(仮称)を展開(中小企業の人材育成(リカレント)も実施)

【第三期の方向性】戦略的な法人経営を支える基盤強化

## ■ 教育研究組織の見直し等に関する取組

2大学1高専連携等

### ■ 2大学1高専の連携の推進

これまでの連携事業を着実に実施するとともに、「教育・研究」に「学生交流・社会貢献」「業務効率」を加えた3分野における今後の中長期的な目標と取組案を示す、新たな連携の在り方（案）を取りまとめました。

### ■ 大都市の課題解決に向けた提言や人材育成

法人内のみならず、産業界や自治体とも連携した「都市課題戦略機構」において、勉強会や見学会を実施し、新時代の観光のあり方の探究、ベンチャーマインドとアイデアを備えた人材の育成に取り組みました。

【第三期の方向性】2大学1高専の連携の促進

## ■ 情報の提供に関する取組

戦略的な情報発信

### ■ 法人、各学校ごとの戦略的な情報発信

大学・法人の名称変更を契機に、各大学・高専の認知度を一層高めるため、**ブランディングを意識した積極的な広報を展開**しました。

【主な取組】

- ・ 名称変更や各校の特長を効果的に伝えるため専門家の知見を活用、各校の取組をSNSで発信
- ・ 生涯現役都市の実現に向けた「100歳大学」の取組の一環として特別講演会を実施
- ・ 令和2（2020）年度から都立大と産技大のシンボルマーク変更の決定
- ・ 都立大で学生や教職員によるSNS等での情報発信
- ・ 各校の同窓会等との連携強化を検討



【「100歳大学」特別講演会】



【各校名称変更の告知兼PRの動画】

【第三期の方向性】戦略的な広報による認知度及びブランド力の向上

## ■ その他業務運営に関する取組

業務改善・施設等整備

### ■ 効率的な業務運営の推進

**新財務会計システムや施設予約システムの構築**、業務の可視化や定型業務の見直し、テレビ会議システムの活用など、効率的な業務運営環境を整備しました。

### ■ 自己収入の増収に向けた取組

クラウドファンディングや寄附金の顕彰制度を導入しました。

### ■ キャンパス整備の検討

キャンパスランドデザインの検討指針及び策定方針の決定や、多摩地域の産学公連携拠点となるための機能等を反映した日野キャンパス新施設の基本設計図面の作成など、都立大のキャンパス整備に関する検討を進めました。

【第三期の方向性】業務運営の改善、財政・施設基盤の整備

### ■ 研究費不正使用の防止

過去に発生した研究費不正使用事案を受け、自己監査における科研費による出張旅費の確認の強化や、研修資料へ事例として取り上げる等、引き続き再発防止に向けて取り組みました。

### ■ 情報セキュリティ体制の強化、意識向上

システム監査を実施するとともに、今後のセキュリティ対策の検討を行いました。また、情報セキュリティ事故発生後、メール誤送信防止対策の導入や全教職員対象の研修の設問・解説の工夫などの再発防止に向けて取り組みました。

【第三期の方向性】社会的責任を果たすための体制強化

法令遵守